

# 第1章 調査の経緯

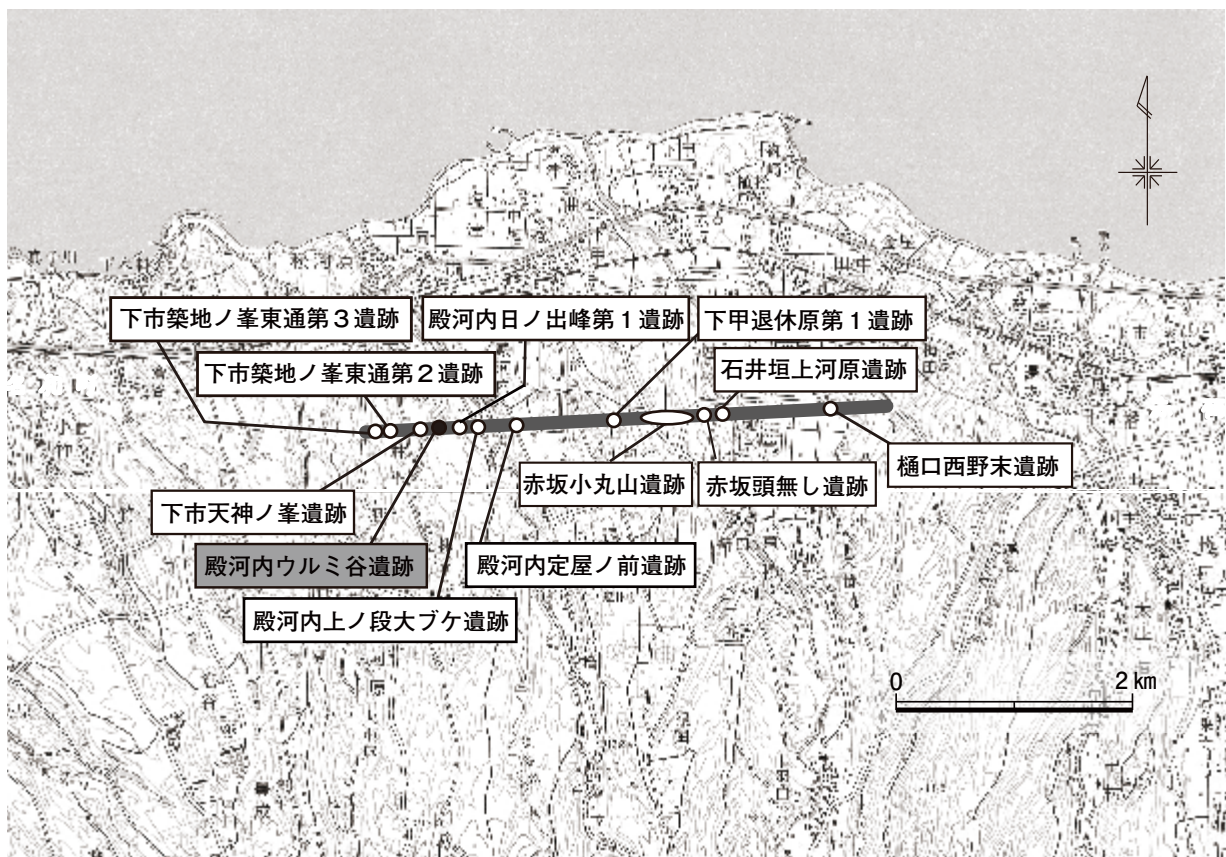
## 第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成24年度一般国道9号中山名和道路の改築に伴い行った、西伯郡大山町殿河内の工事予定地内に所在する、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下遺跡)である殿河内ウルミ谷遺跡の本発掘調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る中山名和道路の計画地内及び隣接地には、多数の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・性格・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘調査が行われた。また、平成21年度からは、鳥取県埋蔵文化財センターも確認調査を行うこととなり、樋口西野末遺跡他11遺跡、平成22年度は、下甲退休原第1遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、殿河内日ノ出峰第2遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡の確認調査を行った。

これらの結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成21年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、樋口西野末遺跡の一部及び下市天神ノ峯遺跡の2遺跡、平成22年度は殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市築地ノ峯東通第3遺跡



第1図 国道9号(中山名和道路)関係遺跡位置図

## 第1章 調査の経緯

の4遺跡、平成23年度は、樋口西野末遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡の6遺跡の本調査を実施した。継続調査である赤坂小丸山遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡分を除き報告書が刊行された。

平成24年度は、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡、下甲退休原第1遺跡、赤坂小丸山遺跡を本調査の対象とした。

### 【参考文献】

大山町教育委員会2010『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』大山町文化財調査報告書第9集

大山町教育委員会2011『町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』大山町文化財調査報告書第13集

大山町教育委員会2012『町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』大山町文化財調査報告書第14集

鳥取県埋蔵文化財センター2011『樋口西野末遺跡 下市天神ノ峯遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書37

鳥取県埋蔵文化財センター2012『下市築地ノ峯東通第3遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書43

鳥取県埋蔵文化財センター2012『殿河内定屋ノ前遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書45

鳥取県埋蔵文化財センター2012『樋口西野末遺跡Ⅱ』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書48

鳥取県埋蔵文化財センター2013『下市築地ノ峯東通第2遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書49

鳥取県埋蔵文化財センター2013『石井垣上河原遺跡 赤坂頭無し遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書50

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査区の名称と調査方法

殿河内ウルミ谷遺跡の調査前の状況は、水田及び山林である。

調査区は、遺跡中央やや東側を北東に流れるウルミ谷川を挟んで東側斜面部をA区、水田部分をB区、西側急斜面部をC区に便宜的に分けて調査に取り掛かった。

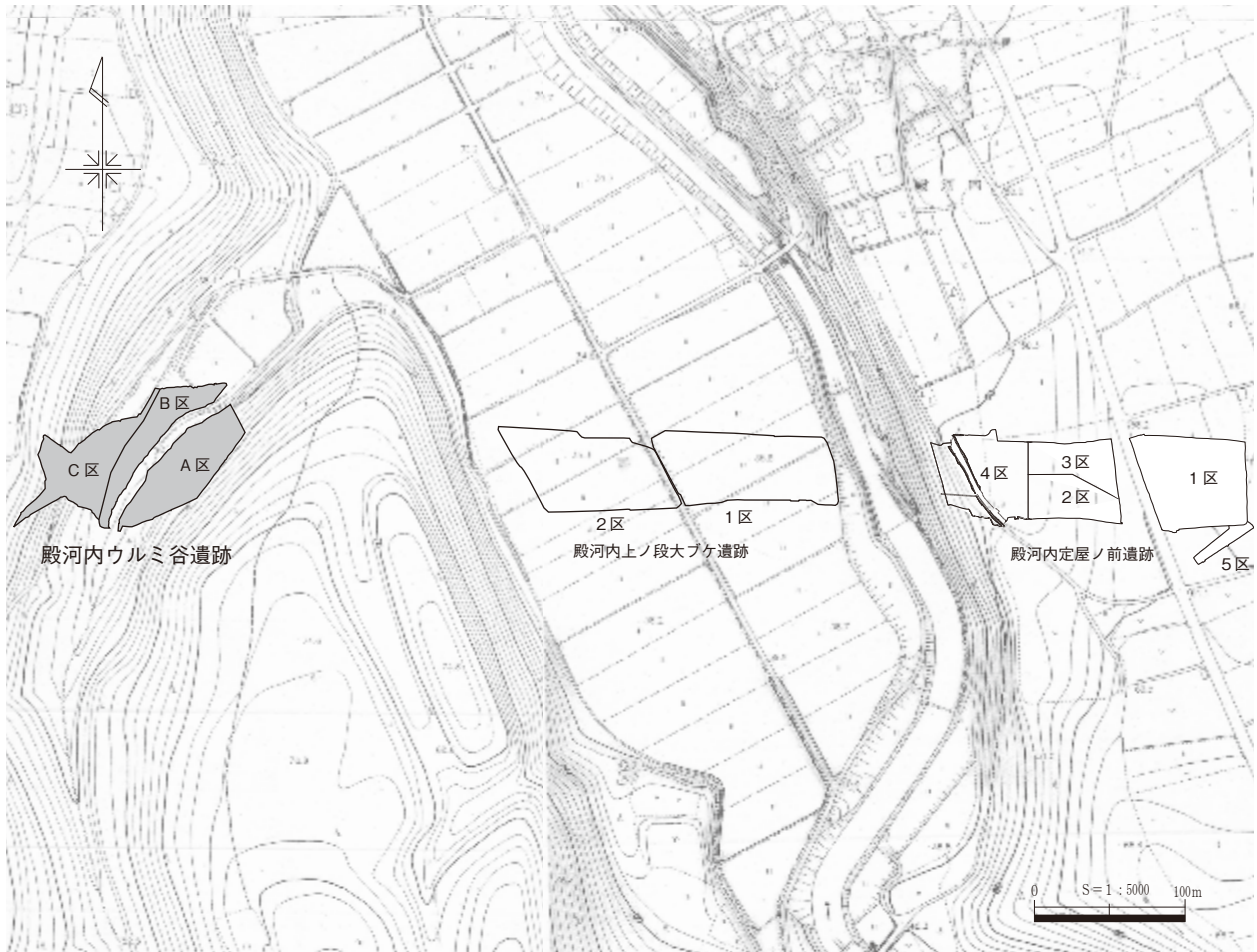
重機表土剥ぎ後、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、C2杭(X:-54260m、Y:-70190m)、I16杭(X:-54320m、Y:-70330m)などとなった。標高値は、国土交通省3級基準点H19-3-9の68.947mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、中(6×7)判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(中判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、中(6×7)判及び大(4×5)判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

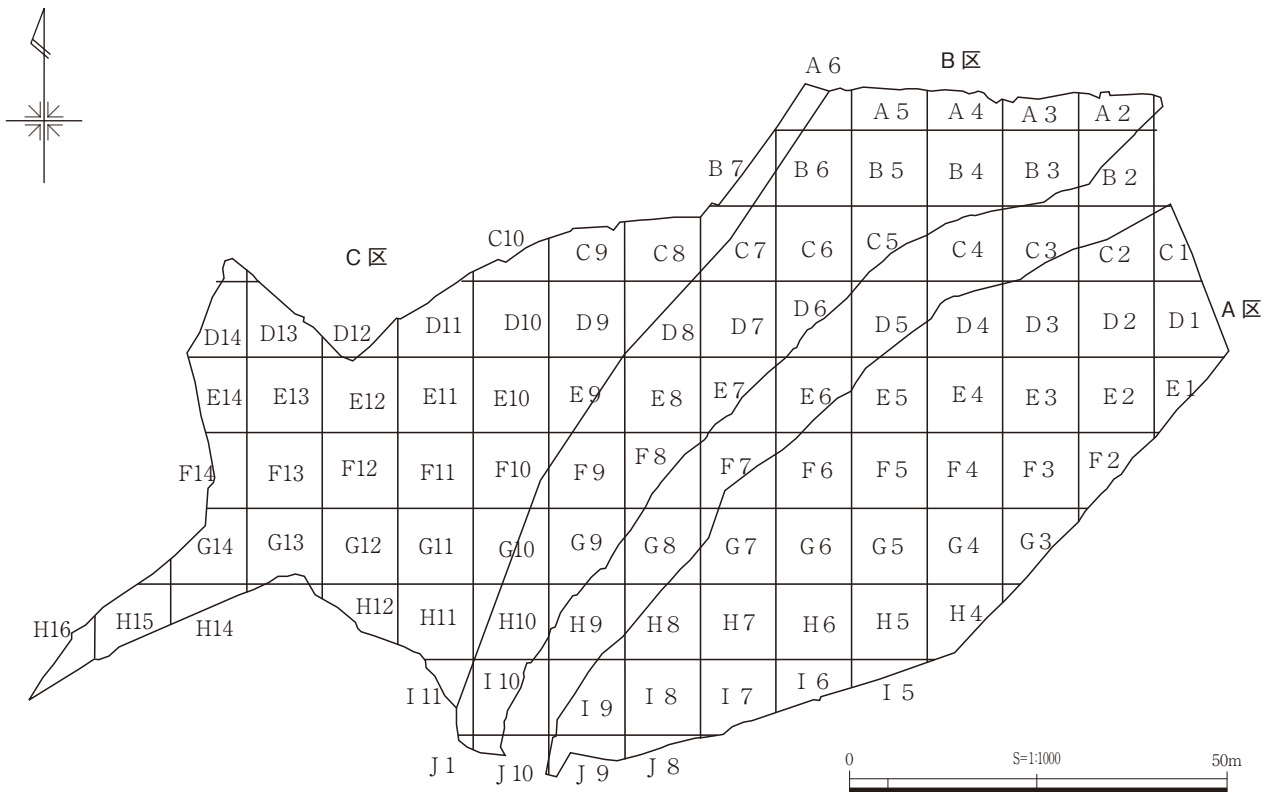
### 2 調査の経過

調査は、平成23年4月にA区・B区の調査前基準点測量及び地形測量、平成24年3月に調査前航空写真撮影、A区の重機による表土剥ぎ作業を行い、平成24年4月9日からA区の残りとC区西側部について重機表土剥ぎを行うとともに、表土剥ぎ終了後方眼測量を行った。4月12日には発掘作業員事前説明会を行い、調査に取り掛かった。

途中、5月28・29日にC区中央部分の表土剥ぎ作業、7月9日から11日にかけてC区東側部分の表土剥ぎ作業、8月1日から8月8日にかけてA区段状遺構周辺にあった切り株の伐根作業、8月28日から9月5日にかけてC区排土搬出及びB区表土剥ぎ作業、10月4・5日に重機によるB区暗渠石材



第2図 調査区位置図



第3図 調査区区割り図

## 第1章 調査の経緯

除去、11月14日にB区北東部分の石材除去作業を行った。また、12月14日には須恵器窯の有無を確認するためにB区北西側法面の重機表土剥ぎ作業を行った。

遺構検出及び掘下げ作業は、4月13日から12月19日まで行った。このうち、11月下旬からはA区E4・5、F5グリッドにおいて旧石器時代遺物が出土したため、地形に沿って2mグリッドを設定し、掘り下げを進めた。排土は、ベルトコンベヤーによって隣接する排土置場に仮置きし、必要に応じて国土交通省によって調査対象外へ搬出した。11月11日には、一般の方を対象とて殿河内上ノ段大ブケ遺跡とともに現地説明会を開催したところ、悪天候にもかかわらず県内外から36名の方々に参加いただいた。調査に並行して調査後地形測量を11月19日から業者委託するとともに遺構掘り下げ作業終了後も遺構実測作業等を行い、12月19日にすべての作業を終了した。調査後航空写真撮影は、12月14日に行った。

調査の結果、二次堆積土中から旧石器時代遺物を多数検出した他、弥生時代中期・後期の段状遺構2、古代の掘立柱建物跡4、段状遺構15、土坑4、柵列2、道と考えられる溝1、近世以降の製炭土坑1、炭窯1、時期不明の土坑8、道2、自然河川を検出した。

なお、B区造成土中からは、溶着した須恵器片や須恵器窯壁体部分がまとまって出土し、古代の須恵器窯の存在が予想されたが、調査の結果、調査地には須恵器窯は存在せず、本来調査地内にあったものが圃場整備段階において掘削されたか、または、調査地に隣接して須恵器窯が存在する可能性が高いことが判明した。

また、自然河川堆積土中から、古代末と考えられる精錬鍛冶滓が多量に出土したが、調査地内では鍛冶炉等の遺構は存在していないことから、調査地の上流域に鍛冶関連施設の存在が窺われる。

調査面積は、8,063㎡となった。

平成25年度は、遺跡内出土須恵器の胎土分析業務、出土鍛冶関連遺物の金属学的分析業務、出土鉄器の保存処理業務について業者委託するとともに、報告書作成を行い、平成26年3月に刊行した。



文中写真1 A区重機表土剥ぎ作業風景



文中写真2 C区上段重機表土剥ぎ作業風景

## 第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

## 鳥取県埋蔵文化財センター

## 平成24年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩
総務係	
副主幹	白岩 準市
主事	水本 裕子
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美

## 発掘事業室

室長	山栴 雅美(兼調整係長)
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	池永 幸子
調査担当(大山調査事務所)	
副主幹	牧本 哲雄(統括責任者兼調査担当責任者)
文化財主事	家塚 英詞、福島 雅儀、原田 克美、岡田 裕之
発掘調査員	折井 敦
事務職員	國谷 亮介、鳥橋 あゆみ

## 平成25年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩
総務係	
係長	白岩 準市
主事	松浦 広美
事務職員	坂本 真奈美、山本 友以

## 発掘事業室

室長	山栴 雅美(兼調整係長)
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	渡邊 ゆきえ
調査担当(大山調査事務所)	
係長	牧本 哲雄
文化財主事	高橋 章司、坂本 嘉和
事務職員	渡辺 晃

# 第1章 調査の経緯

## 調査日誌抄

- 4月12日 発掘作業員事前説明会
- 4月19日 A区土馬出土状況写真。C区遺構検出。SS3検出写真
- 5月14日 A区SS4遺物出土状況図作成終了。C区SS5土層断面実測・写真。SX1周辺地形測量終了。
- 5月21日 SS4例出土状況図。SS5ピット断面実測・完掘写真、平面図作成
- 5月29日 A区検出作業。C区重機表土剥ぎ(～30日)
- 6月13日 A区鉄滓出土層確認。C区SS6掘り下げ。硬化面検出。北壁土層断面実測。
- 6月27日 A区SK7掘り下げ。C区SK6実測終了。SS6平面実測終了。SX2土層断面写真。SS7掘り下げ。
- 7月9日 A区川原石搬出作業。C区重機表土剥ぎ(～11日)
- 7月23日 A区SS1・2検出作業。伐根作業(～8月8日)。C区SS7・8土層断面実測。
- 8月20日 C区SS8貼床除去。SK8土層断面写真・実測。下甲退休原第1遺跡支援(～9月7日)
- 8月28日 C区排土搬出・B区重機表土剥ぎ(～9月5日)
- 9月14日 A区SK7土層断面写真。SK1・2検出作業。B区暗渠平面略図作成。台風対策
- 10月11日 A区SS1・2完掘写真準備、平面実測。河川掘り下げ。C区SS8・9完掘写真。SK10土層断面写真・実測終了。SK9土層断面写真・実測終了。
- 10月15日 A区SS2盛土掘り下げ。SS1・2平面実測。B区9層掘り下げ。C区SS8貼床土層断面実測。SK9、SS11ベルト除去。
- 11月6日 A区SK7平面図作成・床面検出。SK1掘り下げ。B区砂礫層掘り下げ。C区SS12・14ベルト除去・床面検出。
- 11月11日 現地説明会開催。36名参加。
- 11月20日 A区SK7煙道・床面写真。SS2土層断面写真。SK1・2・11・12掘り下げ。SK13・14平面実測終了。旧石器トレンチ掘り下げ。C区SS12・14・17掘り下げ。SS19完掘写真・平面実測終了。SS16完掘写真。
- 11月28日 A区SK7平面・断面図作成。煙道掘り下げ。SK1・2・11・12土層断面実測終了。旧石器グリッド掘り下げ・土層断面実測。B区河川掘り下げ。C区SK9、SS12・14完掘写真。
- 12月14日 A区SK7エレベーション・掘り方実測。旧石器グリッド掘り下げ。土壌洗浄。B区SK16平面実測。調査後空撮終了。法面重機掘削。
- 12月18日 A区SK7排水溝平面実測。旧石器グリッド掘り下げ終了。土壌洗浄終了。B区法面実測終了。
- 12月19日 A区SK7排水溝実測終了。旧石器グリッド地形測量終了。発掘機材撤収。すべての現地作業終了。

表1 遺構新旧対照表

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
SS1	SS1	SK1	SK1	SX1	SX1	SA1	SA1
SS2	SS2	SK2	SK2	SX2	SX2		
SS3	SS3	SK3	SK3	SX3	SX3		
SS4	SS4	SK4	SK4				
SS5	SS5	SK5	SK5				
SS6	SS6	SK6	SK6				
SS7	SS7	SK7	SK7				
SS8	SS8	SK8	SK8				
SS9	SS9	SK9	SK16				
SS10	SS10	SK10	SK10				
SS11	SS11	SK11	SK11				
SS12	SS12	SK12	SK17				
SS13	SK9	SK13	SK13				
SS14	SS14	SK14	SK14				
SS15	SS19	SK15	SK15				
SS16	SS16						
SS17	SS17						



写真3 C区中段重機表土剥ぎ風景



写真4 C区下段重機表土剥ぎ風景

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

殿河内ウルミ谷遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km<sup>2</sup>を測り、人口は17,415人(平成25年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

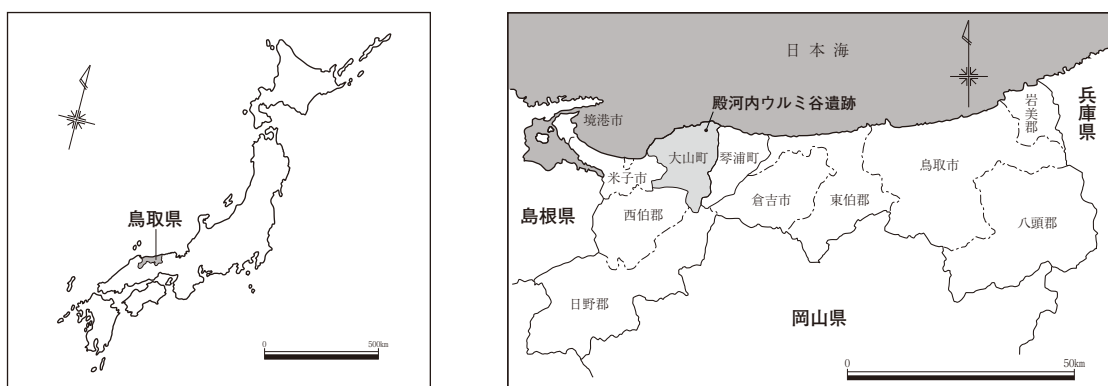
本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

殿河内ウルミ谷遺跡は、同町の北側やや東部に位置し、海岸線から約2.0kmにある、ウルミ谷川を挟んだ標高35～63mの丘陵斜面部及び谷部に立地している。殿河内集落の南西側にある丘陵に挟まれた、狭小な水田部に位置している。当遺跡から丘陵を挟んで約400m東側の河岸段丘上には、縄文時代から中世にかけての集落遺跡である殿河内上ノ段大ブケ遺跡がある他、西側丘陵頂部には、縄文時代の落とし穴を調査した下市天神ノ峰遺跡がある。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、殿河内ウルミ谷遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

**旧石器時代** 発掘調査によって確認された、鳥取県下の旧石器遺跡は、現在のところ5遺跡である。豊成叶林遺跡(122)、下甲退休原第1遺跡(138)では、AT火山灰下の白色ローム層中で玉髄製ナイフ



第4図 遺跡位置図

## 第2章 位置と環境

形石器をはじめ玉髓の剝片、黒曜石製小石刃が原位置を保って出土している。また、殿河内ウルミ谷遺跡(135)では、黒曜石製小石刃・石核等が出土している。その他周辺では、梅田萱峯遺跡(88)でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡(124)で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

**縄文時代** 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡(67)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(63)で局部磨製石斧が出土している。

早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)などで押型文土器が出土している。

前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(60)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。

後期では、殿河内上ノ段大ブケ遺跡(137)では、石囲炉をもつ4棟の竪穴住居跡ほか計5の竪穴住居跡が検出され、県内でも屈指の規模となる縄文集落である。また、南原千軒遺跡(琴浦町光)でも石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出されており、遺構外から県内6例目となる土偶が出土している。

その他、縄文時代を通じて、落とし穴が殿河内定屋ノ前遺跡(131)をはじめ、八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡(71)、下市築地峯東通第3遺跡(59)、小竹上鷹ノ尾遺跡(59)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

**弥生時代** この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)などで土器が出土している程度である。

中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡(63)、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、化粧川遺跡(琴浦町赤碕)などが挙げられる。倉谷荒田遺跡(121)では、中期後葉の竪穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡(琴浦町松谷)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つかり、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯墳丘墓)が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。

後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(89)など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡(琴浦町湯坂)では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。

**古墳時代** 古墳時代前期では、当該地域では石井垣上河原遺跡(141)の墳墓群がある。方形墳墓の他、山陰地方を中心に分布する四隅突出型の墳丘形態をもつ墳墓からなり、弥生時代から古墳時代にかけての過渡的様相を示す遺跡である。その他、前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、52m)(琴浦町別所)は、墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。

また、中期後半の高塚古墳(岡1号墳)(54)は朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土した直径30mの大型円墳で当地域の首長墳と位置づけられる。

中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群(79)、別所古墳群(琴浦町別所)、籠津古墳群(83)、坂ノ上古墳群(84)、梅田(栄田)古墳群(85)、東積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、豊成古墳群(44)などがある。御崎古墳群・別所古墳群・梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部に





1.大塚第3遺跡、2.大塚岩田遺跡、3.大塚塚根遺跡、4.大塚塚敷遺跡、5.富長城跡、6.古御堂遺跡、7.文殊領屋敷遺跡、8.荒田遺跡、9.南川遺跡、10.馬郡遺跡、11.名和公園裏古墳群、12.ハンボ塚古墳、13.長者原遺跡、14.坪田古墳群、15.富長山村古墳群、16.門前礎石群、17.門前古墳群、18.長綱時古墳群、19.原3号墳、20.茶畑山道遺跡、21.清原遺跡、22.中高遺跡、23.長田古墳群、24.平古墳群、25.徳楽方墳、26.源平山古墳群、27.宮内古墳群、28.茶畑古墳群、29.茶畑第2遺跡、30.東高田遺跡、31.高田26号墳、32.高田古墳群、33.高田原廃寺、34.高田第4遺跡、35.高田第10遺跡、36.上大山第1遺跡、37.蔵岡第1遺跡、38.梶原古墳群、39.角塚遺跡、40.栢原遺跡、41.栢原窯跡、42.上寺谷たたら、43.東坪古墳群、44.豊成古墳群、45.豊成28号墳、46.長野城跡、47.浜ノ坂遺跡、48.龍光寺掘遺跡、49.倉谷横穴墓、50.松河原第1遺跡、51.松河原第2遺跡、52.岩屋堂古墳(岡古墳)、53.岡3号古墳、54.高塚古墳、55.曲松古墳群、56.築地峯東通遺跡、57.林之峯東通遺跡、58.天守山遺跡、59.下市築地ノ峯東通第3遺跡、60.下市築地ノ峯東通第2遺跡、61.要害ノ峯遺跡、62.築地ノ峰第3遺跡、63.細工塚遺跡、64.向畑遺跡、65.住吉第4遺跡、66.住吉第1遺跡、67.住吉第2遺跡、68.小松谷遺跡、69.林之峯遺跡、70.下甲拔堤遺跡、71.赤坂後口山遺跡、72.石井垣城跡、73.殿河内落合遺跡、74.退休寺遺跡、75.退休寺飛渡り遺跡、76.退休寺第1遺跡、77.二本松遺跡、78.羽田井遺跡、79.御崎古墳群、80.御崎第2遺跡、81.田中川上遺跡、82.籠津城跡、83.籠津古墳群、84.坂ノ上古墳群、85.梅田(栄田)古墳群、86.梅田六ツ塚遺跡、87.樋口第1遺跡(樋口遺跡)、88.梅田萱峯遺跡、89.梅田東前谷中峯遺跡、90.籠津乳母ヶ谷第2遺跡、91.八重第3遺跡、92.樋口第2遺跡、93.八重第4遺跡、94.八重第1遺跡、95.岩屋平ル古墳、96.八重第2遺跡、97.三谷古墳群、98.三谷遺跡、99.東積古墳群、100.押平弘法堂遺跡、101.茶畑六反田遺跡、102.茶畑第1遺跡、103.押平尾無遺跡、104.古御堂笹尾山遺跡、105.古御堂金蔵ヶ平遺跡、106.古御堂新林遺跡、107.門前第2遺跡、108.門前鎮守山城跡、109.門前上屋敷遺跡、110.名和飛田遺跡、111.名和乙ヶ谷遺跡、112.名和衣裳谷遺跡、113.名和小谷遺跡、114.名和中畝遺跡、115.西坪岩屋谷遺跡、116.西坪岩屋谷古墳、117.東坪中林遺跡、118.小竹下宮尾遺跡、119.小竹上鷹ノ尾遺跡、120.倉谷西中田遺跡、121.倉谷荒田遺跡、122.豊成叶林遺跡、123.豊成上神原遺跡、124.豊成上金井谷峰遺跡、125.松河原上奥田第2遺跡、126.西坪上高尾原遺跡、127.西坪下馬駄ヶ峰遺跡、128.名和下菖蒲谷遺跡、129.西坪三軒屋遺跡、130.下市天神ノ峯遺跡、131.殿河内定屋ノ前遺跡、132.樋口西野末遺跡、133.松河原上奥田第3遺跡、134.下市前築地遺跡、135.殿河内ウルミ谷遺跡、136.殿河内日ノ出峰第1遺跡、137.殿河内上ノ段大ブケ遺跡、138.下甲退休原第1遺跡、139.赤坂丸山遺跡、140.赤坂頭無し遺跡、141.石井垣上河原遺跡

第5図 周辺遺跡位置図

もつものがみられる。

後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(52)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(95)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(琴浦町出上)など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。

この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、中期から後期の赤坂頭無し遺跡(140)、住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。また籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)では、後期の鍛冶工房が検出されている。

古代 大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、東積・汗入・奈和・尺度・高住・新井の6郷が記載されるが、旧中山町域は東積・汗入の2郷が相当する。汗入郡衙の位置については明らかになっていない。

## 第2章 位置と環境

当該地からやや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。大山町東部では、小松谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、樋口西野末遺跡(132)、八幡遺跡(琴浦町八幡)で掘立柱建物跡が確認されており、田中川上遺跡(81)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。細工塚遺跡、樋口西野末遺跡では大型の掘立柱建物群が検出されるとともに墨書土器、転用硯等が出土しており、平安時代の官衙関連遺構か有力層の建物と想定される。

生産遺跡も確認されており、栃原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。下市築地ノ峯東通第2遺跡では、平安時代の須恵器窯3基、製鉄炉1基、炭窯多数が検出されている。殿河内ウルミ谷遺跡では、調査区周辺に須恵器窯の存在を示す遺物が多量に検出された。赤坂小丸山遺跡(139)では製鉄炉1基のほか、それに接続する道路が検出された。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、時期は不明であるが古代山陰道推定路線上で道路状遺構を確認したほか、小竹下宮尾遺跡(118)でも道路状遺構が検出されている。

大山中腹に築かれた大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

**中世** 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。旧名和町域には、名和氏に関する旧跡が認められる。集落遺跡では、南原千軒遺跡、倉谷西中田遺跡(120)では方形館跡や鍛冶関連遺構・遺物が出土した。殿河内ウルミ谷遺跡では、旧河川から精錬鍛冶滓や板屋型羽口が多量に出土しており、調査区周辺に大規模な鍛冶関連施設が存在するものと推察される。

また、中世城館が各地に残り、籠津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(72)、天守山城跡(82)、條山城跡(琴浦町太一垣)、大仏山城跡(琴浦町宮木)がある。また、長野城跡(46)・籠津城(檳城)跡(82)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出されている。

なお、籠津豊後守敦忠によって1357(延文2)年に開基されたと伝えられる金龍山退休寺は、近世を通じて曹洞宗の大寺院として隆盛を極め、周辺には参詣道の痕跡や一丁地蔵が今も残っている。

この時代の特徴的な石造物として、琴浦町内の海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碓塔が7基確認されている。

### 【参考文献】

- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
  - 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
  - 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
  - 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
  - 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
  - 内藤正中・真田廣幸・日置左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
  - 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。